



東北大学

# Newsletter

TOHOKU UNIVERSITY Diversity, Equity & Inclusion NEWS



## 東北大学DEI推進センター

Vol. 6  
2026 Mar

「DEI」とは、「Diversity(多様性)」「Equity & Inclusion(公平性と包括性)」からなる頭字語(アクリニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。

### Headline News

## 女性研究者比率向上加速支援パッケージ 東北大学教員公募(女性限定国際公募)

東北大学は日本初の国際卓越研究大学として、25年間で女性研究者の割合を国際水準(米国 34.0%、英国38.8%など※)に相当する「40%」へと引き上げる高い目標値を掲げています。本学における女性研究者比率(助教以上、2025年)は18.4%であり、特に上位職である女性教授(8.6%)および准教授(13.7%)の割合は旧帝大で最も低い水準にとどまっています。この極めて低い女性比率を迅速に是正し、大学全体の研究力・教育力の強化を図るため、本学では2025年度より、これまでの取り組みに女性限定ヘッドハンティングと女性限定国際公募を加えた女性研究者比率向上加速支援パッケージを始めました。2025年度は11の部局・研究所において教授職ポストを増設し、女性限定国際公募を行います。なお、本措置は、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律(男女雇用機会均等法)」第8条(女性労働者に係る措置に関する特例)の規定に基づく「ポジティブ・アクション」の一環として実施するものです。※文科科学省 大学研究力強化委員会(2022.5.30開催)配付資料「日本と海外の比較」を参照



冨永悌二総長

### 総長からのメッセージ「知の多様性」で、世界を先導する未来へ

東北大学は1907年の建学以来、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」の理念のもと、知を積み上げ社会に還元してきました。そして今、本学は日本で初めて「国際卓越研究大学」に認定され、世界最高水準の研究・教育拠点を目指し、未知なる領域への挑戦を積み重ねています。

現代の複雑な難問を解き明かし、真のイノベーションを創出するには、異なる背景や視点が交わり合う「知の多様性」が不可欠です。それと同時に、大学の本質は普遍的な真理の探究にあります。多角的な視点を持つことは、我々を無意識のバイアスから解放し、より純粋な形で真理へと近づくための礎でもあります。

一方で、本学の現状を省みれば、これまで幾多の取り組みを重ねてきたにもかかわらず、研究・教育のあらゆる場において多様性の実現は未だ遠い道のりです。

この度、本学では「知の多様性」の実現を加速し、組織の在り方を根本から変えるための新たな挑戦として、女性研究者を対象とした教授職ポストを増設し、公募を実施いたします。優れた女性研究者が意思決定層に参画し、新たなパラダイムを切り拓くことは、本学が真に世界を先導するための欠かすことができない推進力となります。また、次世代の大きな希望となり、のちに続く女性研究者たちの確かな道しるべにもなります。

全ての才能が輝く舞台として、東北大学は皆様の情熱と知性を歓迎します。私たちが目指す新たな大学の未来を、共に創り上げていく皆様の挑戦を心よりお待ちしております。

### ◆応募資格

候補者は就任時に博士の学位を有し、当該分野において優れた研究業績を有するとともに、その分野に関する教育・研究に携わり、本学構成員の多様性を促進するための活動にも積極的に参画することが期待されます。また、英語または日本語でコミュニケーションができるレベルを持つことが求められます。詳細については、DEI推進センターのHPサイト([https://dei.tohoku.ac.jp/news\\_topics/public-appeal/p/49151/](https://dei.tohoku.ac.jp/news_topics/public-appeal/p/49151/))をご覧ください。



### 募集部局(分野)

- 法 学 研 究 科 (ジェンダー・多様性に関する法学・政治学分野)
- 理 学 研 究 科 (環境・地球科学分野)
- 歯 学 研 究 科 (地域共創バイオ情報学分野(仮称))
- 薬 学 研 究 科 (臓器連関・病態制御薬学分野)
- 工 学 研 究 科 (機械科学分野)
- 農 学 研 究 科 (再生型アグリバイオシステム学)
- 加 齢 医 学 研 究 所 (加齢医学研究分野)
- 多 元 物 質 科 学 研 究 所 (グリーン機能材料プロセス研究分野)
- 材 料 科 学 高 等 研 究 所 (材料科学、物理学、化学、数学またはその他の材料科学に関連した分野)
- 東 北 ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー (ロシア・シベリア研究分野)
- 病 院 (乳腺腫瘍学分野)



## 東北大学DEIシンポジウム

# 「科学技術分野の女性人材育成をどう加速できるか ー日韓比較から考える課題と展望ー」

日時 2025年11月20日(木)13:30~16:00

開催方法 ハイブリッド開催(オンライン:Zoom(ウェビナー)、会場:東北大学青葉山コモンズ2階大講義室(翠生ホール)

対象 学内教職員、学生、一般の方

参加人数 288名/対面参加150名・オンライン参加138名(関係者含む)



東北大学DEIシンポジウム「科学技術分野の女性人材育成をどう加速できるかー日韓比較から考える課題と展望ー」が11月20日開催されました。基調講演には、韓国女性科学技術者育成財団(WISET:Center for Women In Science, Engineering and Technology)の初代理事長で、現韓国科学技術ジェンダー・イノベーションセンター(GISTeR:Center for Gendered Innovations for Science and Technology Research)のセンター長を務めるHeisook Lee氏を招聘し、2000年代以降に韓国が取り組んできたSTEM分野の女性人材育成政策について学ぶ機会となりました。

2段目左より、佐々木成江教授、秋山正幸教授、田中沙弥果氏、行木陽子氏、丸田薫教授、李善姬講師  
1段目左より、杉本亜砂子理事、井上睦子氏、富永梯二総長、Heisook Lee氏、田中真美副学長、大隅典子教授

講演では、韓国の政策が大きく二つの段階を経て進展してきた経緯が語られました。Lee氏は、第一段階として『女性科学・技術者の育成及び支援に関する法律(2002年)』の制定と、それに続く5年ごとの基本計画策定・改正に言及し、こうした継続的な施策により、1997年に9.7%だったSTEM分野の女性研究者・技術者割合が、2023年には23.7%(日本は18.5%)まで増加した実績を紹介されました。

さらに、数の是正にとどまらず、研究プロセスやカリキュラムに組みこまれた『認識的障壁』に対処するために、第二段階として2021年に『科学技術基本法』や『研究開発成果評価法』へ、研究プロセスにおけるセックス・ジェンダー分析(SGIR)の導入に関する条項が明記されたこと、またそれらの法律に基づき第5次科学技術基本計画(2023-2027年)にもSGIRの実践が盛り込まれていることを解説されました。Lee氏は、『構造的障壁と認識的障壁の両面に対処すること、そしてシステム変革のための法的義務付けと戦略的資金投入こそが不可欠である』と述べ、東アジアにおける共通の課題と展望についても示唆されました。

続いて、本学副学長(ダイバーシティ担当)およびセンター長を務める田中真美より、本学の取り組みについて報告がありました。昨年度東北大学の教職員に実施したアンケート調査の分析結果の一部が紹介するとともに、新たな人事戦略として「加速支援パッケージ」としての女性限定公募の内容を発表しました。これは、日本初の「国際卓越研究大学」としての責務を果たすべく、現在約20%である女性研究者の比率を、今後25年間で40%まで引き上げるという目標達成に向け、従来の施策をさらに強化する人事戦略となります。



Heisook Lee氏



田中真美副学長(ダイバーシティ担当)/  
DEI推進センター センター長



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションでは、副センター長を務める佐々木成江の進行のもと、「中学・高校、大学、企業という3つのライフステージを切れ目なくつなぎながら、未来を担う女性人材を育て、さらに彼女たちが力を存分に発揮できる社会をどのように実現するか」について討議が行われました。前半は、丸田薫氏(本学流体科学研究所所長)による大学での環境整備、行木陽子氏(中央大学特任教授/元日本IBM(株)技術理事)による企業でのダイバーシティ推進、田中沙弥果氏(特定非営利活動法人Waffle理事長)による女子中高生へのSTEM教育支援について、各ステージにおける課題と実践が共有されました。後半では、Lee氏を交え、日韓の比較が行われました。韓国では、2000年代以降、国レベルでの法整備とWISETやGISTeRといった専門機関による支援が進んだことが、女性研究者割合の増加につながり、日本との差を広げた大きな要因であると分析されました。加えて、日本における統計データの取得・分析の不足が指摘され、詳細なデータに基づく戦略立案の必要性が浮き彫りとなりました。

STEM分野におけるジェンダー多様性は、単なる公平性の実現にとどまらず、グローバルなイノベーションの創出や国際競争力の強化、さらには複雑化する社会課題に対処するために不可欠です。今後は、類似した課題や背景を持つ日韓両国が、互いの知見を共有し連携を深めていくことが、東アジア、ひいては世界の科学技術の発展に大きく寄与するものと期待されます。



当日の発表資料は  
こちらから



# TUMUG

## オンラインランチミーティング

TUMUGオンラインランチミーティングは、2020年4月よりスタートし、以後東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目的に定期的に実施されています。今年度後半は、10月、12月、2月に開催され、各回30～40名前後の参加がありました。

10月に開催された第39回目は、2025年度本学に着任された新任教員の5名より、自己紹介を兼ねたご自身の研究について発表いただきました。

大野 直子准教授(工学研究科)、大宮 朋子教授(医学系研究科)、氷見野 夏子准教授(文学研究科)、水野 景子准教授(文学研究科)、常本 亜希准教授(国際文化研究科)

12月に開催された第40回目は、現在子育て中の先生方から「子育てしながら」というテーマで、話題提供をしていただきました。

猪股 直生准教授(工学研究科)、内堀 洪欣助教(病院)、亀沢 知夏助教(多元物質科学研究所)、川口 幸大教授(文学研究科)

2月に開催された第41回は、育児休業を経験し、現在も子育て中である本学の男性教職員の方から「男性の育休」をテーマに、話題提供をしていただき、男性の育児休業のあり方と課題について、議論しました。

足立 智助教(先端量子ビーム科学研究センター)、高山 翔園事務職員(人事企画部 人事給与システム開発室)

これからもオンラインランチミーティングを継続し、ネットワークを広げて行きたいと思っています。多くの方の参加をお待ちしております。



## 12/24(水)DEI Lounge

### 「Happy Holidays –多様なカラーでともに楽しもう」

厚生会館キッチンテラス Couleur にて、DEI Lounge「Happy Holidays – 多様なカラーでともに楽しもう」が開催されました。当日は、性と人権ネットワーク ESTO 理事で「からり」代表の内田有美氏を迎え、「インターセクショナリティの視点から」をテーマにお話しいただきました。ESTO と「からり」の活動紹介では、性的マイノリティが地域で安心して暮らすための支援の重要性が語られ、震災時に避難所へ行けなかった人々の経験や、カムアウトを前提としない支援の必要性、SNS 上で強まる偏見など、当事者が直面する課題が具体的に示されました。参加者は、「ここで生きていく」という当たり前を支える地域づくりの姿勢に強く共感している様子で、学内での人との関わり方や日常の中での多様性への向き合い方を見つめ直すきっかけとして受け止めているようでした。講演後には参加者との交流会が開かれ、日常の中で多様性を尊重するための実践や気づきについて活発な意見交換が行われました。関係含め25名が参加しました。

DEI Lounge では、年間を通じて読書会や映画上映会など多様なイベントを実施し、学生・教職員が互いを理解し合い、安心してつながる学内コミュニティづくりを進めています。



DEI Loungeの詳細はこちら



## お茶の水女子大学・東京大学・東北大学連携2025年度 オンライン集中講義 「ジェンダード・イノベーション入門」

お茶の水女子大学・東京大学・東北大学が連携し、ジェンダード・イノベーションのオンライン集中講義を2月に開講しました。今年度で三回目となる本講義は、2単位が取得できる科目として各大学15名の学生が受講しました。

ジェンダード・イノベーションの基礎から応用までを、三大学の教員によるリレー講義で学際的に学び、さらに三大学混成のグループワークで議論を深め、新しいアイデアを発表しました。

本学からは、田中真美副学長(DEI推進センターセンター長/工学研究科)と佐々木成江教授(DEI推進センター副センター長)が講義を、大隅典子教授(経営戦略本部アドバイザー/医学系研究科)最終日の講評を担当しました。

開催期間：2026年2月4日(水)、5日(木)、6日(金)、10日(火)(4日間)

形態：オンライン(座学とグループワーク) 受講者数：各大学15名(計45名)学部生対象

性差にもとづくイノベーションについて考えてみませんか

ジェンダード・イノベーションの基礎から応用までを、お茶の水女子大学、東京大学、東北大学の教員によるリレー講義で学際的に学び、三大学の学生の混成グループで議論して理解を深め、新しいアイデアについて考察します。

他大学の学生さんと一緒にジェンダード・イノベーションという新しい概念について学ぶチャンスです。ふるってご参加ください。

お茶の水女子大学・東京大学・東北大学連携 オンライン集中講義

### ジェンダード・イノベーション入門



## SAマスコットキャラクターの「たまか」考案者・張さんに感謝状と記念品を贈呈しました

8月21日の「女子大生の日」を記念し、SAのマスコットキャラクター「たまか」が誕生しました。デザインを考案した張亦弛さん(2025年度SA/医学系研究科博士課程1年)に対し、たまか誕生への貢献に感謝して、DEI推進センターセンター長の田中真美副学長より感謝状と記念品の「たまか」こけしが贈呈されました。





# 2025年度 サイエンス・アンバサダー(SA)活動報告

2025年度  
SA活動報告書は  
こちらから



## [ 9/28日 ] 西多賀エリア子ども会主催「出張科学イベント」

西多賀エリア子ども会の依頼を受け、SA6名(当日参加5名)が小学生向けの出張科学イベントを実施しました。「身近なものを使って科学の面白さを体験しよう!」をテーマに、炭酸マグマの科学ショーから始まり、低学年はストロー笛づくりと指紋採取、高学年は浮沈実験と指紋採取に挑戦しました。30名の児童と保護者が参加し、実験後には子ども同士で感想を共有する姿も見られました。企画から運営までSAが担当し、身近な素材を使った実験を通して、科学への興味を育む充実した時間となりました。

会場 西多賀市民センター会議室



## [ 10/11日 ] 東北大学サイエンス・アンバサダーと科学を楽しもう!片平まつり2025

東北大学の研究所やセンター、史料館を紹介する秋のイベント「片平まつり2025」が開催され、DEI推進センターは科学体験企画「サイエンス・アンバサダーと科学を楽しもう!」を実施しました。小学生以下から中学生までを対象に4つの実験を行い、160名の子どもたちと保護者が参加しました。LEDカード作りでは、LEDと電池を使った回路づくりを体験し、光った瞬間に歓声が上がりました。ぶどうジュースを使った実験では、アントシアニンの性質を利用し、酸性・アルカリ性で色が変化する様子を観察しました。ビタミンCの実験では、食品に含まれるビタミンCとヨウ素の反応を学び、身近な飲み物の含有量を調べました。さらに、ペーパークロマトグラフィーによるインクの色分離では、コーヒーフィルターを羽に見立てたクジャクの作品づくりを楽しみました。「たまか」の着せ替えシールコーナーも設けられ、興味のある分野の着せ替えシールを選ぶことで進路を考えるきっかけにもなりました。科学の楽しさを体感できる充実したイベントとなりました。

会場 東北大学片平キャンパスエクステンション教育研究棟1階・DEI推進センター



## [ 10/13日祝 ] SA監修・出演「東京エレクトロン宮城presents小島よしおのまちぶらサイエンス～松島でフシギを解決するピーヤ～」

SA8名(出演・監修6名/監修2名)が、特別番組「東京エレクトロン宮城presents小島よしおのまちぶらサイエンス～松島でフシギを解決するピーヤ～」に5年連続で出演・番組を監修しました。第5弾となる今回は宮城県の松島を舞台に、小島よしお氏(タレント・お笑い芸人)と熊谷望那アナウンサー(tbcアナウンサー)とともに、身近にあるサイエンスの不思議と楽しさを伝えました。

放送局 東北放送



## [ 12/23日火 ] 山形県立山形西高等学校・オンライン研究室訪問

科学技術に対する理解を深め、理科への興味・関心を高めることにより、将来の科学技術の進展に対応する能力の育成や理系分野の進路選択の幅を広げることを目的とした「西高理系プロジェクト」の一環として、山形西高校1年次生74名、2年次生5名の合計79名が参加しました。オンラインで開催された研究室訪問では、冒頭に李善姫講師(DEI推進センター)より、SAの活動紹介が行われました。続いて、山川優樹教授(工学研究科)と児玉栄一教授(医学系研究科・災害科学研究所)が、それぞれの研究室での研究内容や卒業後の進路などの紹介を行いました。その後、SA3名より、自身の進路選択や高校時代の生活・勉強方法、現在取り組んでいる研究について発表しました。

会場 オンライン



## [ 3/4日水 ] 2025年度SA報告会

2025年度のSA活動を総括する報告会を対面形式で開催し、関係者を含め約30名が参加しました。会の冒頭では、佐々木成江副センターよりSA代表者へ感謝状が贈呈され、1年間の活動への労いが伝えられました。その後、参加したSA全員から、各種イベントの企画・運営、note記事や活動報告書の執筆など本年度の取り組みが報告され、そこから得た学びや来年度への抱負が共有されました。進学予定のSAからは「来年度も活動したい!」という声も多く、会の後半では学年や専門分野を超えた意見交換が活発に行われました。なお、報告会後にはSA創設者である大隅典子教授の退職記念講演会・懇親会が同日に開催され、多くのSAが参加して交流を深めました(詳細は本紙面p.6をご覧ください)。

会場 片平北門会館2階エスパス





# 2026年度 TUMUG支援事業・次世代育成事業のご案内

本部締切 4月~7月分

下記の通り実施しますので、公募要領をご確認のうえ、ぜひご応募ください。

## 研究支援要員

両立支援 女性リーダー育成

研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助

対象者

- ◎妊娠(不妊治療を伴う通院を含む)・出産・育児・介護を行う教員・特別研究員・技術職員(男女)
- ◎国の審議会委員等の要職に就く女性教員・技術職員、女性特任研究員・女性特別研究員

## ベビーシッターおよび一時託児利用補助

両立支援

業務や研究と育児の両立に必要なベビーシッター利用料等の補助

対象者

- 育児を行う教職員、特任研究員、特別研究員、博士学生等(性別問わず)
- ※職員も利用できます

## スタートアップ研究費

女性リーダー育成

新規採用の女性教員に、研究スタートのための研究費を支援

対象者

- 新規採用の女性教員(助教以上)

## ネクストステップ研究費

女性リーダー育成

新規の研究課題の遂行や、研究成果の公開に必要な研究費の支援

対象者

- 女性教員(准教授、講師、助教、特任研究員、特別研究員、助手)

## 東北大学サイエンス・アンバサダー

次世代育成

出張セミナー、オープンキャンパス、科学イベント等の企画・実施

対象者

- 大学院女子学生(性自認が女性の方も含む)

## 仙台Iゾンタクラブ 東北大学大学院女子学生国際学会発表支援事業

次世代育成

国際学会発表に係る参加費用の支援

対象者

- 大学院女子学生

4月 April  
24回 東北大学サイエンス・アンバサダー 第2回

5月 May  
8回 ネクストステップ研究費 第1回

月末 仙台Iゾンタクラブ(予定) 東北大学大学院女子学生国際学会発表支援事業 前期

7月 July  
3回 スタートアップ研究費

※9月以降のスケジュールは、当センターのWebサイトをご覧ください。

2026年度より 新制度に変わります  
ベビーシッターおよび一時託児利用補助

詳細は、当センターのwebサイトをご確認ください。

**注意事項** ※プログラムによって対象と締切が異なります。

※東北大学サイエンス・アンバサダーは、各部局担当係を通じての申請となります。各部局における締切にご確認ください。

その他のプログラムは、希望者が直接申請することになります。詳細は、追って公開される要項をご確認ください。



## 速報

むらさきせんだいばぎ

# 2025年度 第9回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者決定

	所属・受賞者名	業績名	受賞コメント
人文社会科学分野	 学際科学フロンティア研究所 平泉 助教	その人らしい人格の形成における世代間伝達の役割の研究	研究者という振る舞いを永く面白く続けられるのは、勇敢で謙虚な人だろうと思います。生来臆病で傲慢な私には、とても務まるはずのない立場です。それに関わらず、このような荣誉ある受賞の機会を頂けた所以は、今日までたくさんの方の、勇敢で謙虚で、そして優しい方々に巡り会えたことに他なりません。未熟な私をこの機会へと繋げてくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。私は文学部で学んだ後に理系の大学院に進み、のびのびと研究をしてきました。自分とは異なる世界に受け容れて頂いた経験を持つ者として、性別や分野などの条件に依らず、誰もが自由に成長できる学術界の醸成に尽力したいと考えております。
理学・工学分野	 流体科学研究所 鈴木 杏奈 准教授	持続的な地熱資源利用と地域共創のデザインに関する研究	この度、「紫千代萩賞」をいただき、大変光栄に存じます。これまでの研究活動は、研究室の仲間や共同研究者、地域の方々との出会いに加え、研究と人生の両立を体現されてきた先生方や先輩研究者の姿に励まされ、支えられて続けてこられたものだと、改めて感じています。私は、数理モデルや機械学習、流動実験を通じて地熱資源の持続的な活用を探究するとともに、現場での対話を重ねながら、技術と社会と一緒に考える研究に取り組んできました。地熱を、人々の暮らしに寄り添い、日常に小さな「ワクワク」を生み出す地域資源として捉え直すことを大切にしています。これからは、自身も次の世代にとっての一つのロールモデルとなるよう、研究活動を通じてワクワクのGive & Takeを楽しみながら続けていきたいと思っております。
農学・生命科学分野	 学際科学フロンティア研究所 久我 奈穂子 助教	脳と末梢臓器の相互作用を支える神経基盤の研究	この度は、荣誉ある「紫千代萩賞」を賜り、誠にありがとうございます。これまで私は、製薬会社での研究経験を含め、生命科学・薬学を基盤とした研究を進めてまいりました。本学に着任して5年目となりますが、薬学研究科での学振RPDを経て、今年度からは学際科学フロンティア研究所に所属し、独立した環境のもと、自由に研究に取り組む機会をいただいております。また、二人の子育てをしながら研究を続ける中で、TUMUG支援をはじめとする、本学の温かいサポートに支えられ、研究に専念できていることを改めて実感しております。この環境への感謝を胸に、今後も東北大学の女性研究者として、研究成果の創出に一層努めてまいります。
医歯薬学・保健分野	 加齢医学研究所 宇井 彩子 准教授	ゲノム安定性におけるクロマチン構造制御と発がん機構の研究	このたびは栄えある「紫千代萩賞」を賜り、心より光栄に存じます。私は本学大学院以来、生命の設計図であるゲノムの安定性とそれを支えるクロマチン構造の動態解明に一貫して取り組んでまいりました。研究の道は決して平坦ではありませんでしたが、幾多の困難を乗り越え今日を迎えられましたのは、恩師をはじめ研究室や共同研究者の皆様、そして家族や友人の温かな助力があったからこそと、深く感謝しております。今回の受賞を大きな糧とし、今後も生命科学の真理追究に真摯に向き合い、独創的な成果を通じて社会に貢献できるよう、より一層研究に邁進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

## DEI推進コラム

国際卓越研究大学に  
相応しいDEIの推進を！

3月末で東北大学教授の定年を迎えるにあたり、ニュースレターへの寄稿の機会をいただきました。1998年11月に東北大学に着任するまでの間に、女性研究者としてのキャリアに関して特段、考えてこなかったのですが、教授会に出てみると周囲には男性しかいなかったことに衝撃を受けました。それが男女共同参画やDEI推進活動を行うことになったモチベーションです。

いちばん最初の活動は、2001年より実質的に辻村みよ子先生が立ち上げられた男女共同参画委員会への参画で、女性用トイレや短時間勤務制度の検討から始まりました。その後、2006年より「杜の都女性科学者育成ハードリング事業」が科学技術振興調整費で開始され、東北大学サイエンス・エンジェル(現アンバサダー)の制度を立ち上げ、現在ちょうど20周年を迎えるということは感慨深いものがあります。

女性研究者の育成事業は、その後、2009年からの「杜の都女性科学者ジャンプアップ事業 for 2013」、2016年からの「杜の都女性科学者エンパワーメント推進事業」と続き、その間に「女子学生入学100周年

記念事業」を介して2014年からの男女共同参画推進センター(現DEI推進センター)の開設、2018年の「東北大学ビジョン2030」におけるダイバーシティ&インクルージョンへの言及と至り、学内保育園の新設・拡充、女性研究者採用の「1/3目標」の設定、2022年の「東北大学DEI推進宣言」および東北大学としてジュニアシダ賞の授与に結実しました。

2023年の「女子学生入学110周年記念式典」では校友会との連携により佳子内親王殿下の博学お成りも叶い、素晴らしいスピーチをいただいたことも思い出深いことです。また、2024年にはジェンダーイノベーションの提唱者であるロンダ・シービンガー先生をDEIシンポジウムの基調講演にお招きし、新たな視座をいただくことに繋がりました。

とはいえ、学部の女子学生比率はまだ3割を超えておらず、女性研究者(助手を除く)の比率も2割に達していません。ダイバーシティの観点からは、外国人や障がいを持つ方などの参画もよりいっそう重要になると予測されます。田中真美副学長のリーダーシップにより、東北大学のDEI推進がさらに進展することを心より祈っています。

## 大隅 典子

経営戦略本部アドバイザー  
大学院医学系研究科教授  
日本学術振興会理事

東北大学女子校友会紫蘭会・DEI推進センター共催  
「大隅典子教授退職記念講演会・懇親会」

日 時 2026年3月4日(水)17:00~19:30 会 場 片平北門会館2階エスパス

長年、本学の男女共同参画およびDEI推進を牽引してきた大隅典子先生(医学系研究科教授・発生発達神経科学分野)の退任記念講演会が3月4日、東北大学女子校友会「紫蘭会」と当DEI推進センターの共催で開催されました。大隅先生は、1998年に東北大学大学院医学系研究科教授として着任。2006年から総長特別補佐として本学の男女共同参画を推進し、2018年から2024年にかけては東北大学副学長(広報・男女共同参画担当)および附属図書館長を務められました。

当日の講演会では、学生時代に抱いた将来の夢から女性研究者として歩んできたライフ・ヒストリーまで、普段は聴くことができない貴重なプライベートエピソードが披露され、先生の多彩で情熱的な歩みを伺うことができました。先生は、2006年の総長特別補佐(男女共同参画担当)就任以来、現在に至るまで、本学の男女共同参画とDEIの土台作りに多大な貢献をされました。また、広報担当副学長として組織を率いるだけでなく、個人でもSNSやブログを通じた広報活動を行い、附属図書館長として貴重資料のデジタル化を推進するなど、多方面において斬新なアイデアと実行力で本学を牽引していただきました。

当日の講演会には、これまで大隅先生と歩みを共にしてきた多くの教職員のほか、奥山恵美子会長(元仙台市長)をはじめとする紫蘭会のメンバー、仙台市の関係者、そして20年前に先生が生みの親として結成したSAの卒業生グループである輝友会のメンバーも各地から駆けつけました。現役のSAたちも多く参加し、会場は大隅先生への感謝と尊敬の意に包まれる温かな場となりました。



各記事の詳細および当センターの活動予定は、WEBやSNSをご覧ください。



東北大学  
ダイバーシティ・エクイティ &  
インクルージョン(DEI)  
推進センター

TEL 022-217-6092

所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1  
E-mail dei-center@grp.tohoku.ac.jp  
W E B https://dei.tohoku.ac.jp

